資料３－４

# 平成24年度評価が「Ⅱ」であった5項目についての対応状況

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>年度計画</th><th>実施状況等</th><th>評価結果</th><th>評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項</th><th>対応</th><th>H25大学<br>自己評価</th></tr>
<tr><td>4-1<br>④　世界を舞台に活躍する語学力に優れた人材の養成<br>[外国語学部の取組]<br>　外国語学部英米学科では、高度な英語運用能力養成のための教育体制を整備し、英語学習講習会、集中トレーニングなど学習支援プロジェクトを実施する。あわせて教育プログラムの検証・改善を行い、卒業時までにTOEIC730（TOEFL：PBT550）点以上*到達者の割合50％以上を目標とする。<br><br>＊どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているレベル</td><td>4-1<br>④　世界を舞台に活躍する語学力に優れた人材の養成<br>[外国語学部の取組]<br>　外国語学部英米学科は、高度な英語運用能力養成のため、英語学習講習会、集中トレーニングなど学習支援プロジェクトを引き続き実施する。また、国際舞台で活躍できる外向きの人材育成を目的とした副専攻プログラム（Global Education Program*1）を外国語学部の学生を対象に開設し、TOEICスコアの向上に活用する。<br>[卒業時：TOEIC730（TOEFL：PBT550）点以上*2到達者の割合50％以上]<br><br>*1 Global Business CourseとGlobal Studies Courseの2コースがあり、外国語学部の学生はGlobal Business Courseを履修することができる。Global Business Courseでは、高度で実践的な英語力、経営に関する知識を駆使して、国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。Global Business Courseの修了要件の1つとして、TOEIC800点以上を課している。<br>*2 どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えているレベル</td><td>〇1年次必修科目の基礎演習・基礎演習Ⅱ及び2年次必修科目Reading and Discussion・Reading and Discussion Ⅱの中で特別テキストを用い、訓練を実施した。<br><br>〇4月に英語学習講演会（Fiona Creaser准教授）を実施した。また、10月には英米学科1年生に対し、実践英語プレ講座を開講した。<br><br>〇英米学科の学生に、国際教育交流センター主催のイングリッシュカフェ（週1回）への参加を推奨し、留学生との交流を行う中で、英語力の向上を図った。<br><br>〇英米学科の学生に対し、国際教育交流センター主催のTOEIC一日集中講座（12月実施）やIELTS対策講座（3月実施）を受講するよう指導を行った。<br><br>〇4月に開設した副専攻Global Education Program（Global Business Course）に外国語学部から16名（英米学科12名、国際関係学科4名）の学生が登録し、履修を開始した。<br><br>＜平成21年度入学生＞　111名<br>　3年次、4年次における受験者数　68名（受験率 61.3%）<br>　目標TOEICスコア（730点）到達者数　45名<br>　学年に占める到達者の割合　41%<br><br>＜平成22年度入学生＞　119名<br>　3年次における受験者数　85名（受験率 71.4%）<br>　目標TOEICスコア（730点）到達者数　51名<br>　学年に占める到達者の割合　43%</td><td rowspan="2">Ⅱ</td><td rowspan="2">（特筆すべき事項）<br>　教育システムや教育方法に関して努力を行い、多様な取組みを実施していることは評価できる。数値目標を達成できなかったことに鑑み、受験率の低い原因を分析した上で、学生の意識を高める取組みに期待する。</td><td rowspan="2">〇平成24年度にTOEICの数値目標が達成できなかったこと及び3・4年次の受験率が低かった原因を分析した結果、次のような要因が挙げられた。<br>①1、2年次に一定のTOEICスコアを取得したため、3・4年次に改めて受験しない学生が多かった<br>②4年次生は就職活動に忙しい<br>　これらへの対応として、<br>①元副学長である教員を管理責任者に選任し、学科教員への意識づけを強化<br>②これまで4年次生を中心に行ってきた受験指導を、就職活動が始まる前の3年次生の段階から実施することに変更し、各ゼミにおいて担当教員による受験指導を強化<br>③入学時のオリエンテーションの際に、TOEIC受験の必要性を説明し、1年次から意識づけを行う<br>などを実施した。<br>　実施にあたっては、ゼミ担当教員に対して、管理責任者が指導状況をチェックするなど、学部長・学科長をはじめ教員が一丸となって取り組んだ。<br>　この結果、平成25年度実績では、3・4年次の受験率が大幅にアップするとともに、3年目にして初めて数値目標をクリアすることができた。<br><br>　また、平成25年度以降の新カリキュラムにおいて、3・4年次の必修の英語科目の評価とTOEIC受験を関連させるとともに、4年次開講の必修科目はTOEIC等スコアによる単位認定を行うこととした。<br>＜3・4年次の必修の英語科目＞<br>・英語リーディング演習Ⅰ、Ⅱ<br>・Advanced EnglishⅠ、Ⅱ<br><br>＜TOEIC受験率と目標到達者の割合＞<br><table><tr><th>年度</th><th>3,4年次受験率</th><th>学年に占める到達者の割合</th></tr><tr><td>H23</td><td>37.6%</td><td>20.8%</td></tr><tr><td>H24</td><td>61.3%</td><td>41.0%</td></tr><tr><td>H25</td><td>85.7%</td><td>59.0%</td></tr></table></td><td rowspan="2">Ⅲ</td></tr>
<tr><td>4-2<br>④　世界を舞台に活躍する語学力に優れた人材の養成<br>[外国語学部の取組]<br>　外国語学部中国学科では、中国語検定の模擬テストや演習での中国語指導の強化などを実施する。あわせて教育プログラムの検証・改善を行い、卒業時までに中国語検定2級レベル以上*到達者の割合50％以上を目標とする。<br><br>＊日常的な話題での会話ができ、読み書きなどにおいても実務で必要な基礎的能力を備えているレベル</td><td>4-2<br>④　世界を舞台に活躍する語学力に優れた人材の養成<br>[外国語学部の取組]<br>　外国語学部中国学科は、1～3年次学生の中国語基礎力を身に付けるため「中国語検定過去問WEB」を活用した教育を行う。また、2年次学生の「中国語7・8」で模擬テストを行い、データを検証する。</td><td>〇中国学科1～3年次生を対象に中国語検定過去問WEBを活用して、中国語基礎力の養成を図った。特に専任教員の授業がある1、2年次生を中心に自主学習や課題の付与、模擬試験などで中国語応用力の向上を図った。<br><br>＜学年別対応＞<br>【1年次生】<br>　夏季休暇中の課題として過去問WEBの準4級、4級等にトライさせた。また、授業では、自己評価シートを毎課提出させ、自身で中国語の理解度、定着度を測らせるなど、「わかる」だけでなく「できる」ようになることへ学生の意識を向上させた。「中国語6」の授業では、1月に中国語検定4級の模擬試験を実施し、合格レベル以上の学生は約63%であった。<br><br>【2年次生】<br>　授業内での課題の他、中国語検定の過去問題を使用し、1月に「中国語8」の授業で中検2級の模擬試験を実施した。<br>　その結果、2年次生における中検2級合格レベル以上の学生の割合は約3%であった。</td></tr>
</table>

| 中期計画 | 年度計画 | 実施状況等 | 評価結果 | 評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項 | 対応 | H25大学<br>自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 16<br>② コースワーク、前・後期課程の接続等<br>（社会システム研究科）<br>社会システム研究科博士前期課程では、4専攻体制の見直し、コースワーク*の設定、学部推薦制度や専任教員の学部教育への協力など学部との連携強化を行う。同研究科博士後期課程では、博士前期課程との接続強化など教育課程の体系化を行う。<br><br>* 学修課題を複数の科目などを通して体系的に履修して、主要な研究分野だけでなく、その関連分野についても基礎的な素養を身に付けること。 | 16-1<br>② コースワーク、前・後期課程の接続等<br>（社会システム研究科）<br>博士前期課程では、コースワーク*の充実、学部との連携強化を行うため、現行の4専攻体制の見直し・再編を行う。また、博士後期課程では、再編後の博士前期課程との接続を含めた教育課程の編成・実施方針を策定する。<br><br>* 学修課題を複数の科目などを通して体系的に履修して、主要な研究分野だけでなく、その関連分野についても基礎的な素養を身に付けること | ○博士前期課程は、履修アドバイザー制度の新設、専門分野を超えた体系的な科目履修制度などのコースワークを取り入れた教育体制を整備したが、調整に時間を要したため、平成25年4月実施を見送り、平成26年4月から実施することを決定した。<br><br>○博士後期課程については、博士前期課程の教育課程を踏まえカリキュラムの見直しに着手した。 | Ⅱ | （特筆すべき事項）<br>社会のニーズと学生の視点から見た魅力など、幅広い視点からよく検討した上で、教育体制の見直し、再編について、実施されたい。 | ○社会システム研究科博士前期課程は、文部科学省との協議の結果、現行の4専攻を維持する形で教育改善を進め、履修アドバイザー制度やコースワークを導入した新たな教育課程を平成26年度から実施することとした。（関係規程を改正）<br>社会システム研究科博士後期課程は、従来の演習科目の廃止や特別研究のみを必修とするカリキュラムのスリム化、複数教員による指導体制の強化を図るなどの教育改善を実施し、新カリキュラムを平成27年度から実施することとした。<br>また、後期課程の院生が必要に応じて前期課程の授業を受講し、前期課程の院生が後期課程の授業を4単位まで受講できることとし、前・後期の接続の強化を図った。 | Ⅲ |

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>年度計画</th><th>実施状況等</th><th>評価結果</th><th>評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項</th><th>対応</th><th>H25大学<br>自己評価</th></tr>
<tr>
<td>27<br>⑬　定員充足率の改善<br>　定員充足率改善を目指し、各研究科・専攻の教育内容の充実、入学者選抜の改善、進学者の増加策、積極的な入試広報など総合的に取組む。あわせて、その成果を検証し、必要に応じてニーズ調査を実施したうえで定員の見直しも視野に入れ改善策を検討する。</td>
<td>27-1<br>⑬　定員充足率の改善<br>　各研究科・専攻の入試広報活動や志願者・合格者・入学者の状況、他大学の大学院入学状況などの情報を収集・整理する。</td>
<td>〇各研究科・専攻の入試広報活動を行うとともに、本学の志願者・合格者・入学者の状況を整理した。<br><br>〇国際環境工学研究科では平成24年4月実施の定員見直しについて、大学院ウェブサイト等で学内外に周知を行った。また、優秀な留学生の獲得と定員充足率の向上のため、東南アジアの学部間締結校への広報活動を実施した。<br><br>＜各研究科における定員充足率の推移＞　定員充足率（入学者数/定員）<br><br>H25入試　H24入試　H23入試<br>・法学研究科　0.00（0/10）　0.8（8/10）　0.8（8/10）<br>・社会システム研究科（博士前期）　0.41（18/44）　0.82（28/34）　0.71（24/34）<br>・マネジメント研究科　0.97（29/30）　0.7（21/30）　0.63（19/30）<br>・社会システム研究科（博士後期）　0.75（6/8）　0.88（7/8）　0.63（5/8）<br>・国際環境工学研究科（博士前期）　0.71（106/150）　0.95（123/130）　0.89（116/130）<br>・国際環境工学研究科（博士後期）　0.83（10/12）　0.19（6/32）　0.13（4/32）</td>
<td>Ⅱ</td>
<td>（特筆すべき事項）<br>　定員充足率は、重大な問題である。総充足率が、前年比10％以上低下している現実を直視し、今後の大きな課題として危機感をもった対応を望む。<br><br>＜各研究科の定員充足率＞<br><table><tr><th></th><th>H25入試</th><th>H26入試</th></tr><tr><td>法学研究科</td><td>0.00　（0/10）</td><td>0.70　（7/10）</td></tr><tr><td>社会システム研究科（博士前期）</td><td>0.52　（18/34）</td><td>0.73　（25/34）</td></tr><tr><td>マネジメント研究科</td><td>0.97　（29/30）</td><td>0.80　（24/30）</td></tr><tr><td>社会システム研究科（博士後期）</td><td>0.75　（6/8）</td><td>1.75　（14/8）</td></tr><tr><td>国際環境工学研究科（博士前期）</td><td>0.71　（106/150）</td><td>0.88　（132/150）</td></tr><tr><td>国際環境工学研究科（博士後期）</td><td>0.83　（10/12）</td><td>0.92　（11/12）</td></tr><tr><td>合計</td><td>0.69　（169/244）</td><td>0.87　（213/244）</td></tr></table>（入学者数/定員）</td>
<td>〇各研究科・専攻の定員充足率を改善するため、各研究科の教員及び事務局職員が入試広報等を積極的に実施した結果、定員充足率は0．18ポイント改善した。<br>　特に、平成25年度入試において、入学者0名（志願者1名、定員10名）となった法学研究科では、研究科のオリジナルウェブサイトの作成や学部生を対象とした進学相談会の実施などに早くから取り組み、平成26年度入試では、入学者7名（志願者12名）と改善した。<br><br>＜平成25年度の取組み＞<br>[全研究科]<br>JR主要駅へのポスター掲示、大学ウェブサイトでのPR等<br>[法学研究科]<br>オリジナルウェブサイトの作成、進学相談会の実施<br>[社会システム研究科]<br>進学説明会の実施、八幡西図書館の講座でのPR<br>[国際環境工学研究科]<br>中国にネットワークのある教員による広報活動→大連特別選抜の志願者数の増加<br>　H25入試　2名　→　H26入試　26名<br>[マネジメント研究科]<br>入試説明会の開催、企業等へのPR、各種特別講座でのPR</td>
<td>Ⅲ</td>
</tr>
</table>

| 中期計画 | 年度計画 | 実施状況等 | 評価結果 | 評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項 | 対応 | H25大学<br>自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 28<br>① 学習支援<br>学生が自らの学習成果の進捗・達成状況を整理・点検できる学習ポートフォリオ*、履修登録システムを導入する。また、学生選書コーナーの充実や専門図書コーナーの設置など図書館の学習機能の充実に取り組み、学生の学習意欲を引き出す支援を行う。<br><br>* 学生が、学習過程ならびに各種の学習成果（例えば、学習目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図っていくことを目的とする。 | 28-1<br>① 学習支援<br>電子シラバスと連動した、両キャンパス共通の履修登録システムを平成25年度運用開始に向けて完成させる。 | ○6月に履修登録システム検討プロジェクトを発足させ、システムの機能確認及び学生・教職員の要望事項を整理し、対応方法等について検討を行ったが、学務システムとの連携など解決に時間を要する事項が多く、平成25年度運用開始は困難となった。<br>今後、課題の解決を早急に行い、平成25年末には履修登録システムを完成させるようスケジュールを変更した。 | Ⅱ | （特筆すべき事項）<br>学習ポートフォリオの活用や専門図書コーナーの充実など、取組みに対する努力は評価できる。ただし、学習支援の遅れは学生生活の満足度の低下につながり、後々への影響も大きいため、履修登録システムなど早急な取組みを望む。 | ○変更したスケジュールに基づき、新たに生じた課題等の解決を行い、遅れていた履修登録システムを平成２５年度内に完成させ、平成２６年度から運用を開始することとした。<br>同システムの導入により、学生が履修登録する際の負担が軽減されるとともに、学生の必修科目の登録漏れも防ぐことができ、学生への学習支援環境がより充実することとなった。 | Ⅲ |
| | 28-2<br>① 学習支援<br>地域創生学群では、学習ポートフォリオ*を活用して、学生が自らの学習状況を自己点検し、自己開発力を身に付けるよう支援する。<br><br>* 学生が、学習過程ならびに各種の学習成果（例えば、学習目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図っていくことを目的とする。 | ○学生が自らの学習状況を自己点検し、自己開発力が身に付くよう、学習ポートフォリオの活用を次のスケジュールにて実施した。<br><br>＜平成24年度スケジュール＞<br>4月：地域創生基礎演習Aの授業で記入方法や活動方法を学んだ。<br>5月：地域創生力の現状と1年間の活動計画を元に演習担当教員と面談を実施、アドバイスをもらいポートフォリオに記入させた。<br>5月～1月：随時活動記録を記入しながら、学生個人でポートフォリオをマネジメントさせた。<br>2月：1年間の振り返りを行い、振り返りシートに記入し、演習担当教員に提出させた。 | | | | |
| | 28-3<br>① 学習支援<br>北方キャンパス学生の図書館利用を促進するため、学生が専門分野を主体的に学習できる専門図書コーナーを充実させる。 | ○専門図書コーナーを前年度から2コーナーを追加し、計9コーナーを設置した。今後は現在の9コーナーについて、1年ごとに、利用頻度の低いものから入れ替えていくこととし、平成25年度分について1月から入れ替え作業を行った。<br><br>＜専門図書コーナー＞<br>①ファイナンス理論の基礎を学ぶ （17冊）<br>②レポート・論文が書ける（22冊）<br>③英米文学がわかる（20冊）<br>④言語学:基礎理論と学際的アプローチ（16冊）<br>⑤人類学・人間学がわかる（20冊）<br>⑥比較政治経済学・比較政策論がわかる（28冊）<br>⑦経済学の基礎がわかる（33冊）<br>⑧英文多読（196冊）<br>⑨ラーニングコモンズ（50冊）<br>合計 402冊<br>※ラーニングコモンズ…図書館などに設けられる学習のための共有スペース | | | | |

| 中期計画 | 年度計画 | 実施状況等 | 評価結果 | 評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項 | 対応 | H25大学<br>自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 63<br>①　認知度向上プロジェクトの実施<br>　語学教育、地域貢献活動、環境技術開発の成果など本学の特長を国内外へ発信し、本学のプレゼンス（存在感）を高めていくため、「（仮称）認知度向上プロジェクト」を発足させ、受験生や市民・企業に対する調査などを通して中長期の広報戦略を策定し、これに基づく広報活動を展開する。 | 63-1<br>①　認知度向上プロジェクトの実施<br>「認知度向上プロジェクト」において、本学の特長を発信し、本学のプレゼンス（存在感）を高めていくための広報戦略を策定し、戦略に基づく広報活動を展開する。 | ○大学のブランディング戦略に携わった実績を持つ企業との意見交換や、本学の福岡県内における地域別の認知度を把握するための調査を行う等、情報収集を行った。<br><br>○日経BPの実施する大学ブランド・イメージ調査結果をもとに、ブランド偏差値の動向を把握した。<br><br>○認知度向上プロジェクト会議において、平成28年度の創立70周年事業を活用して、効果的なブランディングを展開していくことを決定した。 | Ⅱ | （特筆すべき事項）<br>今後は具体的な活動を期待する。 | ○より具体的な活動を展開するため、外部コンサルタントを活用し、教職員や卒業生、後援会、高校、企業などを対象とした「認知度向上に関するアンケート調査」を実施した。<br>　次に、アンケート調査の結果等を踏まえ、外部コンサルタントによる分析や将来ビジョン、ロゴマーク、広報活動の検討を行った。<br>　また、創立70周年記念事業実行委員会との合同会議を開催し、記念事業のコンセプト・キーワードを決定するとともに、若手教職員からなるブランディング検討WGを設置して、教職協働による将来ビジョン・事業戦略の検討に着手するなど、精力的に活動を行っている。 | Ⅲ |

# 平成24年度評価における「特筆すべき事項」への対応状況

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>年度計画</th><th>実施状況等</th><th>評価結果</th><th>評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項</th><th>対応</th><th>H25大学<br>自己評価</th></tr>
<tr>
<td rowspan="2">32<br>⑤ 就職支援<br>インターンシップ枠の拡大、教育効果の経年分析によるキャリア科目の改善、就職ガイダンスや企業面談会の開催などに加え、就職ポータルサイト開設による求人情報や就職活動レポートなどの情報提供、カウンセラー増員による相談体制の強化を行い、就職決定率*90%以上を目指す。<br><br>＊就職決定率＝就職が決定した学生数／就職を希望する学生数×100（学生数には、大学院博士前期課程の学生を含む。）</td>
<td>32-1<br>⑤ 就職支援<br>学外のインターンシップ先を開拓するとともに、学内のインターンシップの内容を充実し、学生の参加機会を拡大する。</td>
<td>〇学外インターンシップについては、今年度新たに九州グローバル産業人材協議会主催のインターンシップに参加する等、インターンシップ先を拡大した。<br><br>＜学外インターンシップ実績＞<br>受入企業数 112社（北方69社 ひびきの43社） （前年度 69社（北方54社 ひびきの 15社））<br>参加者数 236人（北方185人、ひびきの51人）（前年度 205人（北方155人、ひびきの50人）<br>〇学内インターンシップガイダンスの開催（5月）、北九州地域産業人材育成フォーラムや九州インターンシップ推進協議会等のインターンシップの募集・受付（5～6月）、学外インターンシップの実施（7～9月）等を行った。</td>
<td rowspan="2">Ⅲ</td>
<td rowspan="2">（特筆すべき事項）<br>学外インターンシップの拡大や積極的な就職セミナー、企業説明会の実施、就職支援のきめ細かな対応などにより、学部および理系の博士前期・修士課程、文系の博士後期課程の高い就職率は、評価できる。<br>しかし、文系の博士前期・修士課程と理系の博士後期課程に関しては、専攻定員のあり方も含めた抜本的な検討が望まれる。</td>
<td rowspan="2">〇大学院生に対して、指導担当教員や学内放送などを通じ、就職ガイダンスやセミナーなどへの参加を促すなど、就職支援を行った。<br>その結果、特に、昨年度ご指摘のあった文系の博士前期・修士課程及び理工系の博士後期課程の就職決定率はそれぞれ6．3ポイント、8．3ポイント改善し、大学院全体の就職決定率は7．4ポイント改善した。<br><br>＜大学院生の就職決定率＞<br><table><tr><th>区分</th><th>H24</th><th>H25</th></tr><tr><td>博士前期・修士</td><td>92.0%</td><td>98.3%</td></tr><tr><td>文系</td><td>33.3%</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>理工系</td><td>97.1%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>博士後期</td><td>66.7%</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>文系</td><td>80.0%</td><td>ー</td></tr><tr><td>理工系</td><td>50.0%</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>計</td><td>90.1%</td><td>97.5%</td></tr></table><br>定員の見直しについては、国際環境工学研究科において、平成25年度入試から定員を変更して実施している。<br><br>＜国際環境工学研究科の定員＞<br>変更前 → 変更後<br>博士前期 130名 → 150名<br>博士後期 32名 → 12名</td>
<td rowspan="2">Ⅳ</td>
</tr>
<tr>
<td>32-2<br>⑤ 就職支援<br>学部生・大学院生を対象に就職ガイダンスやセミナーなど就職支援を実施する。<br>［就職決定率*：90%以上］<br><br>＊就職決定率＝就職が決定した学生数／就職を希望する学生数×100 （学生数には、大学院博士前期課程の学生を含む。）</td>
<td>〇学部生・大学院生を対象に就職ガイダンスやセミナーなどの支援を行った。<br><br>[北方]<br>4月～ 企業説明会(全38回173名)、合同企業面談会(7回111名)<br>5月～ 集中相談会(全8回62名)、エアラインセミナー(65名)、広告業界セミナー(47名)、会計士セミナー(5名)、教職セミナー(21名)、公務員セミナー(38名)、マスコミ業界セミナー(52名)、不動産業界セミナー(11名)、ﾒﾃﾞｨｱ講座(63名)<br>6月～ 新卒応援ハローワーク仕事・情報交換会(全6回35名)<br>7月 面接対策講座(20名)、適性診断とキャリアコンサルティング(7名)<br>10月 語彙読解力講座(54名)、新聞の読み方講座(63名)、SPI試験対策セミナー(195名)、留学生就職支援講座(4名)、ジョブスタデイ(194名)、就職ガイダンス(800名)、地元企業講座(189名)、マナー講座(303名)、エアライン特別講座(35名)、自己分析セミナー(全8回298名)<br>11月 日経講座(21名)、プレジョブハンター(646名)、異業種合同セミナー(270名)、R-CAP解説セミナー(全12回441名)、エントリーシート対策セミナー(全6回480名)、面接対策セミナー(全15回442名)、グループディスカッション(全15回445名)、マスコミ業界ガイダンス(91名)<br>12月 ジョブハンター(1,500名)<br>1月 労働法制講座(28名)<br>(通年) きゃりあーな(5名) 福岡サテライト(424名)<br>(随時) 就活相談：窓口相談、内定者・カウンセラーによる就活相談(個別相談)、エントリーシート添削相談 メールマガジン<br>3年生向け：学内企業個別説明会<br>4年生向け：学内企業選考会<br>新卒応援：ハローワーク仕事・企業情報紹介会<br><br>［ひびきの］<br>5月 インターンシップガイダンス(参加者136人)<br>6月 面接対策講座(3人)<br>7月 就職ガイダンス(151人)、ビジネスマナー講座(54人)、就活なんでも相談会(4人)、面接対策講座(2回7人)、留学生就職支援講座(6人)、公務員セミナー(30人)<br>8月 SPI2模試(42人)、筆記試験対策講座(34人)、業界研究セミナー(26人)、自己分析セミナー(26人)<br>10月 就職ガイダンス(97人)、SPI2模擬試験(101人)、適性診断検査(84人)、自己分析講座(54人)、企業研究講座(89人)、就職ガイダンス(160人)<br>11月 ハローワーク出張相談(6人)、内定者懇談会(29人)、就職ガイダンス(102人)、実践マナー講座(46人)<br>12月 留学生就職ガイダンス(6人)、面接対策講座(24人)<br>1月 公務員セミナー(20人)<br>2月 集団模擬面接講座(23人)、グループディスカッション講座(24人)<br>3月 個人模擬面接(41人)<br><br>≪就職決定率≫<br>学部：文系94.8% 理系96.0% 計95.0%<br>博士前期・修士課程：文系33.3% 理系97.1% 計92.0%<br>博士後期課程：文系80.0% 理系50.0% 計66.7%</td>
</tr>
</table>

| 中期計画 | 年度計画 | 実施状況等 | 評価結果 | 評価が大学と異なる理由及び<br>特筆すべき事項 | 対応 | H25大学<br>自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 32-3<br>⑤ 就職支援<br>国際環境工学部は、1 年次から4 年次までの連続的・系統的なキャリア教育を行うにあたり、平成25 年度科目開設予定の「企業と技術者」(2年生対象)を、引き続きセミナー形式で開講する。 | ○1 年次から4 年次までの連続的・系統的なキャリア教育として、平成25年度開設予定の科目「企業と技術者」をセミナー形式で引き続き開講した。(3回実施　参加者計47名)<br><br>○「企業研究」(3年生対象)及び「職業と人生設計」(1年生対象)をそれぞれ実施した。 | | | | |
| | 29-2<br>⑤ 就職支援<br>地域ものづくり交流センターでは、インターンシップの実施などにより学生の就業力を培う。(一部再掲) | 【再掲:年度計画№29-2参照】 | | | | |